

見てわかる 金融力調査

第4回

世代別の特徴

金融広報中央委員会では、2012年9月に「金融力調査」の結果を公表しました。この調査は、日本における18歳以上の個人のお金や金融に関する知識や行動の特色を把握するために実施したものです。当委員会では、調査結果を活かして、世の中の人々が必要としている金融知識の普及や金融教育の支援を行っていきたく考えています。

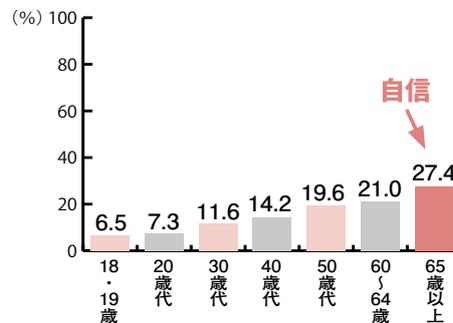
このコーナーでは、「金融力調査」の結果の一部を紹介し、エッセンスを分かりやすく説明します。

今回は、「世代別の特徴」についてです。高齢層（65歳以上）の特徴の一部をご紹介します。高齢層では、金融の知識や判断能力に自信のある人が、他の世代に比べ多くみられます。その一方で、暮らしやお金の管理への関心のない人が多く、また、金融に関する基礎的な知識（例：リスクとリターンの関係※）を理解している人は、他の世代に比べて少ないとの結果が出ています。

※リスクとリターンの間には、一般的に、①高いリターンを得ようとするリスクも高まる（ハイリスク・ハイリターン）、②リスクを低く抑えようとするリターンも低下する（ローリスク・ローリターン）という関係があります。「リスクなく高いリターンを得られる」といった「おいしい話」はありませんので、ご注意ください。

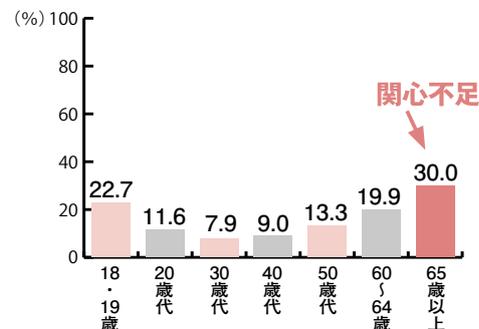
金融の知識・判断能力に関する自信

「自分の金融に関する知識や判断能力は十分高い」と感じている人の割合。



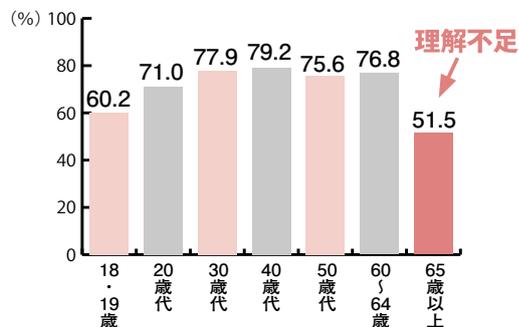
暮らしやお金の管理への関心のなさ

「暮らしやお金の管理に関する知識・情報に関心がない」と回答した人の割合。



リスクとリターンの関係の理解

「平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがある」ことを理解している人の割合。



読者の皆さんの実感と比べていかがでしょうか。

今回で「見てわかる金融力調査」は最終回となりますが、金融広報中央委員会では、各世代の特徴を踏まえながら、お金に関する知恵（金融リテラシー）の普及に取り組んでいきたいと考えています。